The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	＜新刊紹介＞島津忠夫編著『和歌史の構想』
Author(s)	堤, 和博
Citation	語文. 1991, 56, p. 45-46
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/68829
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

新刊紹介

島津忠夫編著『和歌史の構想』

堤　和博

三諸の神の帯ばせる泊瀬川水脈し絶えずはわれ忘れめや
（『万葉集』巻九・一七七〇）

「俺は別にいいよ」って何がいいんだか
わからないままにうなづいている（俵万智・角川短歌賞）

厳密ではないが、本書に引用されている歌のうち詠作時期が最も古いものに属する歌と、最も新しいと思われる歌を引いてみた。この間にも和歌は脈々と詠み継がれ、日本文学史を彩り続けていたことは周知の事実である。そうすると、例えばこの泊瀬川を三諸の神の帯に見立てた歌とわけのわからないうなづきを詠んだ短歌にも何かつながりがあるのかも知れない。それを解明するには当然上代から現代までを視野に入れた「和歌史」の研究が必要不可欠である。しかし、「日本文学史」は勿論のこと、「～史」といった研究が困難であることは（私のごとき者にはまだまだ伺い知れないことではあるが）、多くの大家が等しく呟かれるところであり、「和歌史」の研究もそれ程数多いとは言えないのではないか。

このように、「和歌史」を語り得る人物は数少ないと思われるのだが、その中の一人に本書の編著者島津忠夫先生が数えられることは、先生を知る者なら誰もが認めるであろう。後にも触れるように島津先生自身近い将来「和歌史」を執筆されることを考えておられるようなのだが、それより前に、先生が教授としてちょうど十年勤められた大阪大学教養部を一九九〇年三月をもって定年退官なさったのを記念して編まれたのが本書である。執筆者には、島津先生の授業を受けた経験の有無に関わらず、大阪大学に縁のある研究者が広く名を連ねている。またその内容は、上代から近代まで各自が専門とする時代の和歌・短歌について論述したものを集めたものになっている。目次を示せば以下のごとくである。

序　島津忠夫　**和歌史の構想**　島津忠夫　**天雲の影さへ見ゆる―記紀万葉にみる泊瀬川の諸相―**　和田嘉寿男　**憶良の言葉「存亡の大期」又々の説―言説を離れ籌量を絶つ―**　井村哲夫　**大伴家持の風土表現考―佐保の山辺から高円の野の上まで―**　清原和義　**和歌真名序考**　後藤昭雄　**拾遺抄・拾遺集の屏風歌の意義―「延喜御時」をめぐって―**　田島智子　**彰子入内料屏風絵と和歌**　伊井春樹　**「近頃の歌」との類似をめぐって―平安後期～鎌倉初期の意識―**　佐藤明浩　**「物語二百番歌合」から「風葉和歌集」へ**　大槻修　**慈**

円「法楽百首群」の範囲と性格　山本一　西行・寂然・慈円・良経の六道の歌を読む　谷知子　『十訓抄』に於ける和歌―先行文献からの考察―　泉基博　風雅集随便抄―四季巻頭四首―　大坪利絹　歴代和歌の風情書上帳［雁の部］　今井優　二つの「稲負鳥」―宗祇流古今注「裏説」の性格―　寺島樵一　『続明題和歌集』の性格―内容・成立時期・編者・編纂目的などの問題―　三村晃功　良寛をめぐる人々―由之・鵲斎・光枝―　長谷完治　晶子短歌と泣菫詩―『小扇』『恋衣』を中心として―　山根賢吉　誓子と茂吉―茂吉短歌の俳句性―　神谷かをる

個々の論文の内容については、それぞれの題目が雄弁に物語っていると思われるので、ここでいちいち紹介するのは割愛させていただく。しかし各論文が編著者自身序文で述べられている「本書が和歌史の研究の進展のために寄与するものがあることを期待したい。」という期待に沿う内容を備えていることだけは申し添えておきたい。

本書の次には島津先生自身による「和歌史」の執筆が待たれるが、先生はこれも本書の序文で「『和歌史論考』を纏めたいという希望は捨ててはいないが、それはいつのこととも知れない。あるいは幻になって、今では多くの手を加えねばならない和歌史の論考の断片だけが残ることにもなり兼ねない」と述べられている。「あるいは幻となって」以下の言葉は御謙遜と拝察する。先生には「日本文学史」も書いていただかなくてはならない。一日も早い島津忠夫著『和歌史論考』の刊行が期待されるのである。

（一九九〇年三月、和泉書院刊、A4版、四百十二頁、定価一万千円）

―本学大学院博士後期課程在学―